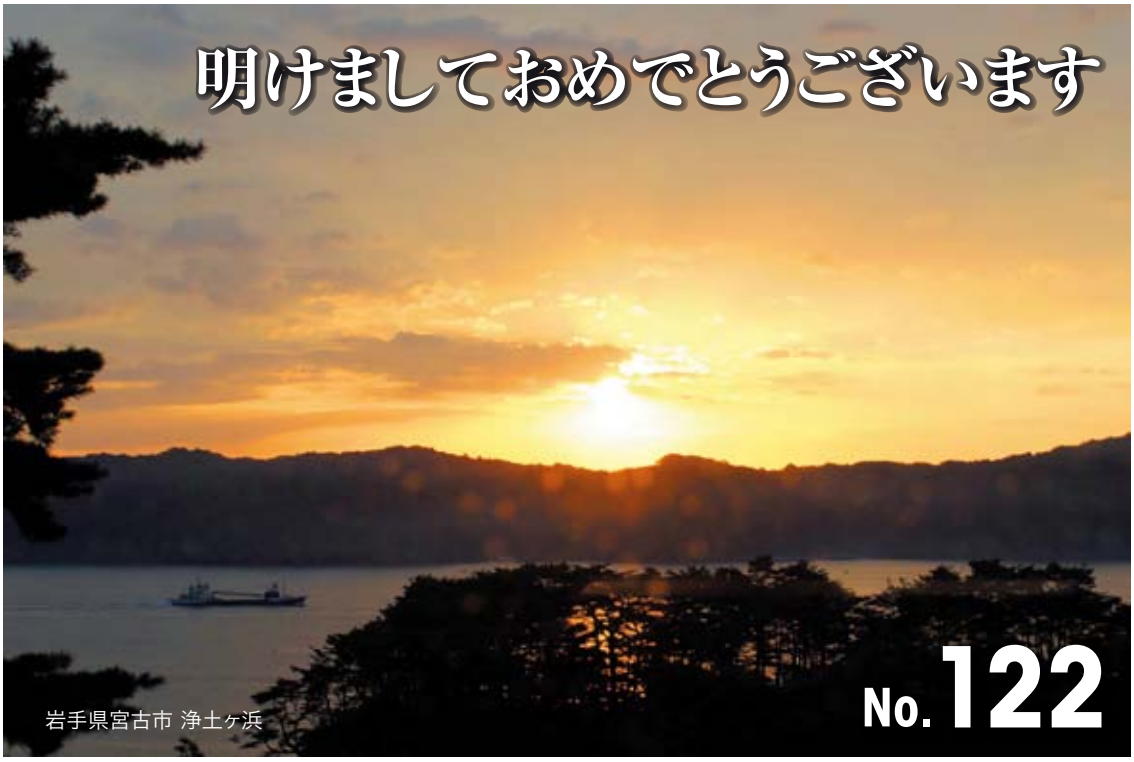
INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION OF KISHIWADA 2020.1.15.

にゅ～とぴあ岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ



岩手県宮古市 浄土ヶ浜

会長　井上　實

皆様にはご壮健で越年され、初めての令和の新年を穏やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年も様々な事業が何れも実りある大きな成果をおさめることができました。参加された市民の皆様、会員の皆様、担当された役員をはじめスタッフの皆様のご尽力に対し深く敬意を表し感謝申し上げます。

さて、2018年の法令改正により地域で働き生活する外国人とその家族が確実に増加しています。市内5ヶ所に開設している日本語サロンは日本語の学習を通じてそれぞれの文化や生活習慣を相互に学びあい、日々の困りごとの相談など外国人にとっての安心できる居場所となるようつとめています。また、市立小・中学校には外国人の新入生、転校生の児童生徒が増えている現状に対し、市教育委員会の日本語指導補助員制度に協力しています。

このように普段の生活のレベルで日本語を介して外国人と会員の交流の場を提供し、日本語が理解しにくい児童生徒に対し教育活動のお手伝いをすることで岸和田市の国際化に寄与できることは大変意義深いものがあると思います。

さらに今年からは、外国人にとってむつかしいと思われる日本語を少しの工夫で「やさしい日本語」にできるように研究・普及に取り組んでまいりたいと考えています。そのことで、災害弱者といわれる高齢者などに災害（避難）情報をより確実に届けられることになるとも思われます。

「やさしい日本語」は日本語の理解がしにくい人には「易しい日本語」であり、必要な情報が届きにくい人には「優しい日本語」になりうると期待できます。

無料配布中

「にゅ～とぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にした親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。

Since 1989

ifa-きしわだ
岸和田市国際親善協会

ifa-kishiwada.rinku.org

地球どんぶり
世界文化遺産・国宝 姫路城と好古園バスツアー

10/20（日）

岸和田東ロータリークラブ様よりの助成金を活用した外国人とのふれあいの場「地球どんぶり」事業の一環として実施された企画です。雨天続きのあとの秋晴れに恵まれたこの日、30人（うち外国人13名）が参加しました。外国人の殆んどが東南アジアの国々から、研修生として在住しながら当協会の運営している「にほん語教室」の生徒です。目的地に向かうバス中で丁寧過ぎる程の紹介があったおかげでお互いすっかり仲良しになることができました。

天を突くように威風堂々とそびえる、白く輝く天守閣（英文：Main Keep）。その圧倒的な姿は、白い鷺が舞い立つように見えることから、別名「白鷺城」と呼ばれています。明治、昭和、平成の大修理を経た景観はみごとなものです。昨今の異常気象のせいでしょうか、季節外れの桜があちらこちらで、ちらほら咲き乱れていました。

当協会の「だんじりマップ」は10か国語版で発行されていて、祭りに関しては日本一と自負していましたが、姫路城では何と20か国語版の立派な案内書が用意されていました。世界文化遺産と国宝に認定されているため、その格の違いをあらためて感じさせられました。この日は行楽日和ということもあって、駐車場は満杯で、30台を超える観光

バスが全国から訪れており、お城への入場の待ち時間も30分でしたが、厳しい角度の階段を登りつめた天守閣からの眺望は、30階ビルに相当するもので素晴らしいものでした。心地よい疲れのあと訪れた「好古園」は御屋敷跡庭園で、お城を借景にした回遊式の日本庭園です。庭園群と江戸時代を偲ばせる築地塀や門、渡り廊下で結ばれた佇まいが、特別史跡地に相応しい歴史的景観を創り出しています。

このように参加者の満足度100％を達成できたのも、十分に企画を練られた「地球どんぶり」事業の賜物です。次回も多くの外国人が参加できるような企画を楽しみにしています。（広報部会）

▲季節外れの咲き桜と天守閣

回遊式日本庭園　好古園▲

Rotary 国際ロータリー第2640地区
岸和田東ロータリークラブ
第2074回例会に卓話者として招待される

10/25（金）

2010年7月、岸和田東ロータリークラブ様が結成35周年を迎えるにあたり、当協会が運営する外国人との出会いの場「地球どんぶり」事業に30万円をご寄贈いただき、更に2016年11月には40周年を記念して、同事業に年10万円、計5年50万円をご寄贈いただきました。市からの補助金が年々削減されるなか、貴重なる活動資金として新しい事業の実施が可能となり、大きな成果と評価を成し遂げることができました。これは偏に岸和田東ロータリークラブ様のご支援の賜物であることは申すまでもありません。

同ロータリークラブの10月例会において、当協会副会長の塩屋 裕さんが卓話者として招待された席上で、これらのご支援に対して当協会を代表して謝意を申し述べました。卓話のテーマは、クラブ会員の多くが医師であることを鑑み、「外国人患者 in 岸和田」です。そのなかで岸和田市は外国人在住人口が全国平均の半分、岸和田人の平均寿命も2.5歳低いという現状を鑑み、もっと住みやすい街にするためにも、外国人のためのサポート体制を積極的に改善、検討すべきことが多々あるのではということをお話しました。

今後予想されるインバウンド（観光客、ビジネスマン、労働者、留学生）や富裕層による医療ツアーの増大及び入管法の改正により、年間約8万人の増大が予想されています。外国人のための行政レベルでの生活環境の改善、医療対策、特に医療通訳の整備は急務です。

当協会が運営する「地球どんぶり」事業は、地域在住の外国人のネットワークづくりに大きく貢献しています。そして当協会として引き続き岸和田東ロータリークラブ様よりいただきました助成金を有効に活用し、異郷に暮らす外国人に同胞との新たな出会いと連帯の場を提供し、安心して日本で暮らすことができるように尽力して参りたいと存じます。そして今後とも岸和田東ロータリークラブ様のご協力とご支援をお願いしました。（事業部会 井上 實）

第14期日本語ボランティア養成講座上級修了式

9/26（木）

9月26日（木曜）、職員会館3階会議室において、第14期日本語ボランティア養成講座（上級）修了式を行いました。岸和田国際親善協会には5つの日本語サロンがありこれらのサロンで日本語ボランティアを希望する方のために2年間の養成講座を開催しています。1年目は外国人に対する日本語学習支援の基礎技術を学ぶ初級講座。2年目の上級講座で実践的な学習を行い、各サロンに実際にボランティアとして参加できます。養成講座14期は、15名の研修生が2年間の養成講座を修了しました。これからは、研修で学んだことを現場で実践するということになります。あらためて、澤田直子、服部圭子の両先生のご指導に心から感謝の意を表します。一生懸命教えれば、一生懸命勉強してくれる、養成講座の仲間と一緒に勉強できる喜び。これが修了生代表の所感でした。両先生の講師所感は次の通りでした。

【日本語ボランティア養成講座（上級）修了者名】

井藤　一恵	宇野 美千代	柿花　稲美
河合　豊文	川端　和子	重松　容子
中西　恵子	西村　友造	東　史子
樋口　美雪	福嶋 登志子	部谷　和代
松本　純子	南野　啓子	脇田　啓子

澤田先生は、①外国人を一緒に暮らす仲間として対応する　②わかりやすい日本語　③日本語ボランティア、学習者が共に学ぶという姿勢　④地域で日本語教育を推進する、を熱っぽく語られました。

一方、服部先生は、①日本語サロンは生活者としての外国人と生活者としての日本語ボランティアの交流の場　②修了生は地域の日本語教育に是非参加して欲しい一役に立てる人材である　③臨機応変　④継続　⑤落ち込まない、と励ましの言葉を贈られました。　（松本 光雄）

関西国際センター
第22回 ふれあい交流祭り

11/23（祝）

関西国際センターで 11 月 23 日に行われた「ふれあい交流まつり」に参加しました。

今年の 4 月に当協会に入会したばかりの私はすべてが初めてで、スタッフとして仕事をスムーズにこなせるのだろうかと不安でいっぱいでした。しかし、先輩の方々やスタッフとしてお手伝い下さった KIMONO クラブの皆さんに助けて頂き、楽しく参加出来ました。

ふれあい交流まつりでは研修生の方々のブースや各団体のさまざまなブースが設けられ、そこでは居合、書道、華道、茶道、水引き細工、和紙を使ったカード作りなどが紹介され、体験することができました。また、和太鼓の迫力ある演奏もありました。

当協会では、折り紙、けん玉、羽根つき、ヨーヨー、だるま落とし、こま回しなど「日本の伝統的な遊び」と、インドネシアと中国についての「ミニミニ講座」を行いました。「ミニミニ講座」は講師の方のお話のあとクイズが行われ、大人も子供たちもたくさん参加し盛り上がりました。インドネシアのことについて首都ぐらいしか知らなかったのでそのクイズで勉強させていただきました。中国の漢字についてのクイズでは「汽車」は自動車、「信」は手紙など日本語の漢字とは違うことについて学びました。外国の文化を学び、その国の人々と交流することはとても大切だと感じました。また研修生の方たちともっと交流したいと思うので、彼らが気軽に興味を持ってもらえるようなブースにできればと思いました。

他の各団体のブースも見学したいと思っていましたがすぐに時間が過ぎほとんどまわれなかったのが心残りでした。次回はもっといろいろ見学したいと思います。

来年は当協会がふれあい交流まつりの事務局の当番となります。ぜひ多くの皆さんにご参加、ご協力いただければ幸いです。皆さん、一緒に来年の「ふれあい交流まつり」を盛り上げていきましょう。　（西村 紀子）

地球村クッキング
～アフガニスタン編～

9/ 29（日）

今回の地球村クッキングは岸和田在住のアフガニスタン人ハサンさんご一家を講師にお迎えして行いました。ご一家は来日して今年で4年目、ご夫婦、中学生の息子さん二人、来年度小学校に入学する娘さん、3歳の息子さんと2歳の娘さんの7人家族です。ご夫婦二人は当協会の複数の日本語サロンで毎週日本語を学んでいます。講座参加者は当協会の非会員13名を含めた定員の30名ちょうど、中にはスーダンと韓国人の参加者もいて、国際色豊かな料理講座になりました。一家の真ん中の二人のお子さんがかわいい笑顔とおしゃべりで終始私たちを和ませてくれました。

メニューは Kabuli Pulao、Ash-e Joe（スーペ・ジョー）、サラダでした。Kabuli Pulao は骨付きラム肉、レーズン、にんじんを添えたアフガニスタン風の炊き込みご飯です。骨付きラム肉は圧力鍋で50分ほど煮込みました。ザハラさんは圧力鍋を持っていないので、骨から肉がほろっととれるくらい柔らかくなるまで、7時間以上もコトコトと煮込むそうです。当協会井上会長が「最近の日本は時短が流行だが、今日は時間をかけてゆっくり料理をするアフガニスタンの食文化に触れることができて、学ぶところがたくさんあった。」と挨拶されましたが、その通りですね。Ash-e Joe は本来鶏肉と大麦のスープですが、大麦が手に入らず、鶏肉、しいたけ、にんじん、玉ねぎを数種の香辛料と煮込んで、コーンスターチでとろみをつけました。どの料理も油をたくさん使っているのにあっさりしていて、またラム肉もよく言われるような臭みは全くなく、本当においしかったです。デザートにザハラさんが自宅でロシアンナポレオンケーキを作って持って来てくれました。

皆様のご協力のおかげで無事に講座を終了することができました。感謝申し上げます。また別の企画へのご参加をお待ちしております。　（事業部会　藤平 敬子）

やさしい日本語 第2回

外国人等にわかりやすい日本語を使いましょう。
そのためには少し工夫が必要です。

工夫① 難しいことばを避け、簡単なことばにする

給　水　→　水をくばる　　休　校　→　学校が休み
身軽な　→　動きやすい　　落下物　→　上から落ちるもの

工夫② 1文を短くして、分かち書きにし、文の構造を簡単にする

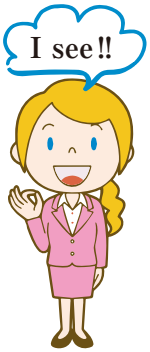
1文を24字程度、10文節程度に。主語と述語を一組だけ含む文に。
「地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物に近づかないでください。」

工夫③ 災害時によく使われる言葉、知っておいた方がよいと思われる言葉はそのまま使用

そのまま使い、そのことばの後に＜ ＞を使い言い換えを表記する
余震　＜後から　来る　地震＞
崖　＜山の急なところ＞
懐中電灯　＜手に持つ電灯＞
ボランティア　＜手伝う人＞

工夫④ 外来語を使用するときは気をつける

外来語は原語と意味や発音の異なるものが多い
○　ガス、テレビ、バス
×　ライフライン、デマ、パソコン、ゲリラ豪雨



工夫⑤ローマ字は使わない

京都　きょうと　Kyouto　Kyoto
おとうさん　otousan　otosan

工夫⑥擬音語・擬態語の使用を避ける

めちゃめちゃ　　どきどき
きりきり

参考文献：「やさしい日本語」有志の会の「やさしい日本語」12 のルール

次号につづく（事業部会）

国際交流の中で不可欠なのは外国語です。しかし、日本語は他の外国語と比べて、文字も文法も全く違う言語です。これが私たち日本人にとって外国語を学ぶ上で大きなハンディキャップとなっています。また古来から海に囲まれ外国文化に接する機会が少なかったことから、無意識のうちに外国語にコンプレックスを持つようになり、苦手意識を持つのは当然です。

このような背景のなかで、皆さんはどのようにして外国語に接し学習しているのか、苦労話や感じていることを自由に投稿していただきましょう。

Let's learn foreign language.

《仲良し》

「Bạn tốt」「好朋友」「Teman baik」、これらの言葉は「仲良し」という日本語をいろいろな国の言葉で表そうと調べたものの一部です。

私は、「Mixed Roots」で知り合ったベトナムの小学生Tさんに日本語と宿題などの学校の勉強を少し教えていたことがあります。夏休みの課題として「人権ポスター」を描くことになり、考えたのがいろいろな国の言葉で「仲良し」を書いてみようというアイデアでした。「仲良し」の一言が、岸和田の子どもたちと外国の子どもたちを繋ぐ一言になればと願いながら、彼女はポスターを仕上げました。

現在、岸和田市の小・中学校には様々な国の子どもたちが多数在籍しています。私が小学校教員を退職する数年前から少しずつ外国の子どもが増えつつあり、ある会議の場でその子どもたちの困っている様子が報告された。当時、子どもたちは言葉や習慣が理解できず戸惑い、学校現場も子どもたちにどう対応していいのか手探りの状態でした。

それから現在に至るまでに岸和田市国際親善協会と人権教育課の尽力により、日本語指導補助員という制度が創設され、私を含めた数名が小・中学校に派遣され活動中です。外国語に全く縁のなかった私ではありますが、「Mixed Roots」や日本語指導補助員として、また日本語サロンで様々な国の人々と出会うことにより、それらの国々の言語や文化の一端に触れることができ、私の脳内は日々更新されています。　（野口 礼子）

《私と韓国語》

私が現地へ行って使おうと、初めて勉強した言語は韓国語でした。韓国語はその当時「韓国語四週間」という、シリーズ本のひとつの参考書があり、ほぼそれしかなかった。

テープも何もなく解説も雑だけれど、「四週間」という甘い言葉に魅せられて、ともかく出発の日までに、ハングル文字と数え方と簡単な質問の仕方だけ覚えて、関釜フェリーに乗りました。

フェリーの二等のざこね席では東大で先生をしているという在日のおじさんと話してすごしましたが、私が韓国語を少し勉強して2週間ほど韓国旅行する、韓国が好きだと言うと、とても興味を持ってくれ、あなたのような日本人は見たことがない、あなたなら大丈夫だと太鼓判を押してくれました。それほどにその当時（1975年頃、朴正熙の時代、戒厳令中でした）韓国旅行をし、韓国語を学ぶという日本人は少なかったのです。

そして、その韓国旅行は本当に「大丈夫」でした。どこへ行っても楽しく、どこへ行ってもモテた。

「どうして日本人なのに韓国語がそんなに上手なの？」

「あなたのように韓国語を勉強する人は珍しい、日本では何をしているの？」と聞かれ、参考書に出ていて唯一覚えた例文「仕方なしに乞食をしている」と答えると、とても受けてくれました。

しかしながら、現在は韓国語はほぼ全部忘れています。　（金児　尚）

ifa-コラム EL MUNDO

エル ムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

ラグビー代表チームにみる多文化社会へのヒント

アジア初の第9回ラグビーワールドカップが昨年我が国で開催された。

日本代表チーム（BRAVE BLOSSOMS）が予選で強豪国チームを撃破し全勝でベスト8入り、決勝トーナメントに進出した。その活躍ぶりに国中が熱狂したことは記憶に新しい。

代表チーム31人中、外国出身選手は15人、約50％を占めている。こうしたチーム編成が可能だったのは、実はラグビー発祥の地イギリスの歴史にあるようだ。かつてパクス・ブリタニカと称され繁栄を誇った大英帝国時代のローカルルールが元になっている。

オーストラリアや南アフリカ等の植民地出身者でイギリスに居住する者の出場資格をどうする?という問題が起こり、ここで国籍を問わず「出生」と「居住」の観点から ①両親が当該国に生まれ、②当事者が2年以上居住していればOK というまさにローカルルールが出来上がった。今、これが世界に広まり現在では ①本人が当該国で生まれている。②両親または祖父母のうち1人が当該国で生まれている。③本人が当該国に3年以上住み続けている。（2020 年から5年以上と決定）のいずれかに該当すれば OK。

日本だけではないサモア、ウエールズ、トンガ、スコットランド、フランス、オーストラリア、イタリア等々の国もこの基準により外国出身選手が加わりチーム編成されている。まさに多国籍、多民族の混成チームである。

一人ひとりの選手が日本代表として誇りをもって団結力 ONE　TEAM を生み出し、出身国や国籍が様々ながらひとつの勝利を目指して戦う肉弾戦の姿は非常に美しく感動的である。

昨今、我が国でも様々な現場の厳しい環境下で働き・暮らす大勢の外国人がそれを乗り越え日本の文化を吸収しながら共生の社会を生き抜こうとしている。果たして日本人がこれに応えていようか?ラグビー代表チームにみた ONE TEAMに何かを感じる。　（桐原 喜彦）

English Open Café

10/19（土） Mike Hoyer さん（カナダ）

10月はカナダ人で堺在住のMike Hoyerさんといつも行動を共にされている奥様のColleenさんをお招きしました。マイクさんはミッション系の元校長先生、奥様はカウンセラーで定年退職後キリスト教会とカナダ政府により主にアフリカ諸国で干ばつや災害に苦しむ地域へ食料支援で送られた物資が途中で盗まれる事が多い中、本当に必要とする人々に届くように管理しいろいろな部族を回り食料を平等に配布するだけでなく、現地の無職の若者を雇い井戸の作り方や支援物資の管理の仕方など人材育成にも貢献されています。

2015年にはネパール地震の被災地へも赴き支援をされました。助けを必要とする沢山の国を訪れたそうですがパキスタンでの支援活動は毎日が危険で軍隊と警察に守られながらお仕事をされていたそうです。旅行を含め40ヵ国余りお二人で行かれたそうですがその中でマイクさんはマリ、奥様はネパールがお気に入りだそうです。残念ながら1月にカナダに戻られるそうです。お二人の惜しみない支援と経験豊かなお話にとても魅了され有意義な時間を過ごすことができました。私自身も今後国内で災害などの被害にあわれた方へ自分のできる範囲での支援をできたらと改めて思います。今後またどこかで支援を必要とする場所へ行かれるそうですがお二人の安全とご健康をお祈りいたします。

（上田 順子）

11/16（土） Glenn Ishii さん（フィリピン）

佐賀出身の曾祖父様が１９１９年にフィリピンに移住され、ご結婚。日系４世のグレン氏はセブ島と大阪で、とてもユニークな語学学校を経営されています。ケンブリッジ英検の検査官にも従事され、日本に来られて１０年が過ぎました。

セブ島はフィリピン群島の真ん中にある細長い島で立地に恵まれ台風や津波の心配も皆無のようです。最も重要な歴史のひとこまと強調されたのは、１５２１年フェルディナンド・マゼランがセブ島の東、レイテ島に寄港しアジアで初となるキリスト教の布教に成功した事実です。しかしマクタン島の領主 Lapu Lapu の改宗に失敗し、マゼランは死亡。Lapu Lapu は国の英雄として彼の像がマクタン島の名所の一つになっています。セブ島の息を呑むような自然の美と豊かな天然資源に恵まれ、島から島へロープで渡る !! と言うスケールの大きな zip line、他にも jet ski、scuba diving や乗馬などが楽しめるそうです。またセブ市は、世界屈指のコールセンター、英語教育、観光事業の中心地として知られています。

人々は気さくでおもてなし上手、チャーミングで大阪人ととても似かよっていると仰っています。私にとって最も印象的だったのは氏のお人柄、誠実で意欲的、信念と行動の人。老若男女全ての人を魅了するであろうと思える話ぶり。一言で表すなら氏こそまさにチャーミングな方でした。

（中林 孝子）

Mixed Roots

外国から来た子どもたちに、日本語の支援ができればと始めたMixed Rootsですが、なかなか子どもたちが集まりません。土曜日の午後、保護者がその子どもをマドカホールまで連れてきてもらわなければなりません。岸和田市内に点在している彼ら。仕事をしている親たちには、連れてくることは、難しいことなのです。

外国から来た子どもたちが、どんどん増えていることは分かっていましたので、教育委員会に、彼らへの日本語指導がしたいと申し出ました。その申し出が受け入れられて、日本語指導支援員という形で、各学校へ、派遣するしくみを作りました。各学校の先生の要請で、この支援員を派遣することができます。この支援員については、たくさんの方々の協力で、週一時間か、二時間、彼らへの日本語指導が実現しています。

Mixed Roots が、月に一度か二度。支援員でも週に一時間か二時間。日本語指導が充分ではないのは、わかっています。本人の意思で来たのではない彼らに、彼らの日本での生活を助けて、わかってあげることができる大人がいることを伝えたいのです。

また、私達には、話しにくいことでも、同じ境遇の子どもたち同士なら、悩みを話しあえるのではないかと、思うのです。ですから、Mixed Rootsに、彼らを集めたいのです。

月に一度か二度でも、一年、二年会うことで、彼らの心の交流ができるようになればと願うのです。彼らを集める良い方法はありませんか？

（東田 和代）

和泉高校 ドイツ留学生

和泉高校留学生
Erik Block さん（日本）

エリックくんは今年8月末ドイツ北部のギーフホルンという町からやって来ました。日本語は主にインターネットを使って約1年独学で勉強したそうです。えっ、独学で？ひらがなやカタカナもちゃんと読めるし書けるし、会話もできます。すごいです。他に英語とスペイン語も話せますが、この3か国語の中で発音が一番難しいのはスペイン語、日本語は漢字の読み書きは難しいけれど、発音はそんなに難しくないとのこと。語学の勉強が趣味というだけあって頼もしいかぎりです。

テキストの学習の合間にいろいろフリートークもします。家族で毎冬オーストリアへスキーに行き、夏の長期休暇にはスペインやイタリアで水泳を楽しむこと。来日後ホストファミリーに連れて行ってもらった奈良や京都、USJなどがとても楽しかったこと。本来サッカーが好きだけれど、ドイツとは違った経験をするために、日本ではバドミントンクラブに入ったことなど。長身の彼が繰り出すスマッシュは相当鋭いことでしょう。

水曜日和泉高校では U さん、H さん、私の三人が交代で、金曜日東岸和田サロンでは F さんが彼の日本語指導を担当しています。今後漢字の勉強もしたいと意欲的なエリックくん、日本語レベルが向上し日本での生活が充実したものになるよう、私たち四人ががっちりとスクラムを組んでサポートしたいと思います。そして将来日本で働きたいという夢をぜひ実現してほしいと願っています。　（藤平　敬子）

多文化学習
博物館で世界旅行 ～メキシコ～

11 / 7
（木）

公共交通機関を利用して、千里万博公園にある国立民族博物館を訪れました。EXPO'70から50年、アポロ人口衛星が持ち帰った「月の石」を見るために入場に4時間も待ったことが懐かしく思い出されます。6,400万人が入場した会場跡は,当時の面影は微塵も見られない程、大公園に変わっていますが、その中で「太陽の塔」が当時のまま誇らしげにそびえ立っています。その一角に博物館があり、常設館では世界各国の民俗文化を見ることができます。また企画展ではヨーロッパ、アジア、アフリカなどの様々な文化と融合してできたメキシコのアルテ・ポプラル（特別な才能に恵まれた芸術家の作品ではなく、職人や一般の人々による造形表現の総称）では、仮面や毛糸絵、陶器の資料とともに、骸骨の姿があふれる都市の街路をイメージしたコーナーや典型的なアルテ・ポプラルである「生命の木」(万博で展示されたもの)などを紹介しています。また16世紀から19世紀にかけて、アフリカ諸地域から輸出された黒人奴隷（奴隷貿易）は主に南北アメリカ大陸で、プランテーション農業などの経済活動に無償で従事させられた当時の奴隷・捕獲具の展示は強烈な印象を与えています。

▲メキシコ展　生命の木

常設コーナー▲

紅葉が始まった秋晴れの絶好の行楽日よりで、平日のためゆっくりと世界の民俗文化を堪能できました。参加者は少人数ながら会員間の交流が図られ、満足度100%の多文化学習でした。　（広報部会）

地球家族

《箸》

日本通を自慢していた外国人が、日本の食堂でカレーを注文した時にスプーンが出てきたことに憤慨して、箸を持ってこさせたと言う話があるそうです。

英語ではchopsticks、中国語で「快子（クァイーツェ）」、つまり「素早く動くもの」と呼ばれるそうです。この「快子」がヨーロッパに持ち込まれて英語のchopsticksになったそうです。

地球上で箸を使っている人類は約三割で、後はナイフとフォーク、そして一番多いのは手づかみだそうです。「手づかみ」と聞くと未開な土地の「野蛮」とのイメージを連想しますが、日本人もにぎり寿司やおにぎりは手づかみで食べますし、アメリカ人もピザやホットドッグはやはり手づかみです。それなら、手づかみ以外は上品かと言うとナイフは切り裂くイメージが、フォークは突き刺すイメージがありこれもある種野蛮な行為のようにも思われます。英語のchopsticksを直訳すると切り刻む・たたき切る棒と私たち日本人のイメージからかけ離れてしまいます。

手づかみやナイフ・フォークに比べ、箸の挟む行為は何か品があるように思います。ナイフとフォークで育ってきた外国人が、日本人より上手に箸を使って食事をしているのを見ると、うれしくなります。ついつい、「上手ですね。どこで練習しましたか？」と野暮な質問をしてしまします。

福井県小浜市の箸会館では箸の持ち方の指導しています。私たち日本人はもう少し箸の使い方の躾けとトレーニングが必要な気がしました。　（内田 満弥）

岸和田に暮らして…

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。

Living in 岸和田 KISHIWADA

第 29 回

第 28 回は

ロランド ベセラさん(ペルー)

1か月の短期滞在で岸和田在住の実姉宅をベースに日本各地を旅行しながら、主に家業の農業を視察しています。本国ペルーの出身地は首都 Limaから北へ約２００キロ Barrancaで約１０ヘクタール（甲子園球場の2.6個分）という広大な農場を所有し、ジャガイモ、とうもろこし、大豆、とうがらし等を大規模栽培しています。将来的には日本への輸出を計画しています。

近くにはHuascarán国立公園があり、低緯度地域にある冠雪の山としては世界最高峰のウアスカラン山南峰（6，768m）があり、これが公園の名前にもなっている世界で最も高い国立公園でもあります。植物相と動物相の多様性に富んで生物圏保護区にもなっていて、ユネスコ世界遺産（自然遺産）に登録されています。アンデス山脈の殆んどが曽て海の底であったことを物語る痕跡が随所に残っています。

日本への農産物輸出計画にあたって、何よりもまず日本の末端消費者がどのようなものを好んでいるか知るために、各地の地元特産品を並べている「道の駅」や「スーパーマーケット」で調査をしています。食品衛生法絡みで厳しい輸入規制の中で、知名度の低い南米産ですが、最近ではバナナ、牛肉、小麦、大豆、アボカド、コーヒー、ワイン、鮭、えび、ウニなどが急増している現状を理解しました。そしてロランドさんが感心したのはそれらの商品がすべて日本の消費者向けにサイズ、包装、内容表示等品質管理がしっかりと為されていることです。そして新規参入の一つの大きなヒントを得ることができました。紫トウモロコシです。赤ワインやブルーベリーに含まれている抗酸化物質アントシアニンという色素成分が豊富で、脂肪細胞が増大するのを抑え、ガンに対しても抑制効果があると言われています。またペルーでは食事の時に出される一般的な飲み物であるチチャモラーダにも含まれています。

紫トウモロコシ▲

広島の原爆ドームや博物館、神戸、東北の被災地を訪れて、逆境に屈しない日本人の素晴らしい助け合いの精神、絆の強さ、そして日本のどこへ行っても清潔で秩序正しく、安全な国日本であることをあらためて感心したそうです。

（塩屋　裕）

▲低緯度最高峰ウアスカラン山

▲ウアスカラン国立公園

Information

■KIX 泉州国際マラソン招待選手歓迎交流会

【と　き】 2月14日(金)18：00～
【ところ】 浪切ホール 和食や庄八
市の友好都市、中国からの招待選手を交え
日中友好協会、日韓親善協会との共催で行います

＊詳しくはチラシをご覧ください

■KIX 泉州国際マラソン大会　街頭応援

【と　き】 2月16日(日)12：00～
【ところ】 岸和田城お堀端　消防署前

■多文化共生講座「やさしい日本語」

【と　き】 2月29日(土)14：00～
【ところ】 マドカホール 3F 視聴覚室

＊詳しくはチラシをご覧ください

■2020年度総会

【と　き】 4月18日(土)14：00～
【ところ】 浪切ホール 4F 交流ホール

＊詳しくはチラシをご覧ください

■English Open Café

各国のゲストを招きプレゼンいただき交流します
進行は全て英語で行います
【と　き】 9月以外の第3土曜日13：30～15：30
2020年4月は実施日変更
4月25日(土)13：30～15：30
【ところ】 マドカホール 3F 視聴覚室
＊申込なしでどなたでも参加いただけます

にゅーとぴあ岸和田 No.122
編集担当：内田満弥・大塚 洋・塩屋 裕・西村紀子・三森すみ代
お問い合わせや感想などは事務局まで
TEL&FAX (072)457-9694
https://ifa-kishiwada.rinku.org/ メール kokusai@sensyu.ne.jp

にゅーとぴあ岸和田 No.122 岸和田市国際親善協会だより ifa-きしわだ
岸和田市国際親善協会 2020年1月15日発行 事務局 〒596-0004 岸和田市荒木町1丁目17番1号 マドカホール内 TEL072-457-9694
E-mail：kokusai@sensyu.ne.jp URL：http://ifa-kishiwada.rinku.org